

# 施設のマネジメント、外国人スタッフの受け入れ 幅広く活躍する介護施設の係長

キャリアアップ

塩田弓子さん / 35歳

特別養護老人ホーム 寿生苑 施設係長

キャリア

20歳頃	短大で介護福祉士の資格を取得し寿生苑入社
26歳頃	生活相談員として相談業務に従事
27歳頃	介護支援専門員の資格を取る
30歳頃	外国人スタッフの受け入れを担当
34歳頃	施設係長となる

ある日の1日



- 障がい者施設で働く母の話を聞き、自然に福祉の道へ
- 介護職、生活相談員、外国人受け入れ、キャリアを積んで施設のマネジメントに活かす
- 来日してすぐの外国人を勇気づけ、笑顔は言葉にまさることを実感

## 福祉の仕事をする前は何をしていた？

### — 福祉の道に進むと決め、短大へ入学

障がい者施設で働く母の話を小学生の頃から聞いていて、自分も福祉の道をめざそうと、福祉系の短大に入学し社会福祉を学びました。実習先の一つが寿生苑で、雰囲気がよく、職員同士も楽しそうで明るい印象だったので、就職もここに決めました。実習後も引き続きボランティアとして通っていたので、すんなり馴染めましたし、職員との関係づくりもスムーズでした。皆さんも温かく受け入れてくれました。

一昨年度施設係長となり、指導者を育成するマネジメントの職に就いたのですが、専門知識や人材育成のための色々な知識が必要となり、学生の時もっとちゃんと勉強しておけばよかったと、今更ながら勉強の必要性を痛感しています。

### — きっかけは、母の影響

福祉の道を選んだのは、母の影響が大きいです。母は知的障がい者施設で働いていました。直接支援のスタッフではなかったのですが、そこで働くスタッフの一生懸命な姿を見たり、利用者と触れ合ったりして、福祉の仕事はやりがいがあると、私に聞かせてくれたものでした。

中学生の頃、その施設が催すお祭りに遊びに行き、興味が深まりました。職員も利用者も一緒になって祭りを楽しんでいましたし、利用者も運営に携わって、お祭りをみんなで盛り上げようとしているのが印象的でした。以来、自分も人の役に立つ仕事ができないかと思い始め、介護の仕事につきたいという気持ちが強くなりました。

## ❗ 福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？

— 施設のマネジメントと外国人受け入れで忙しくも楽しい毎日



入社後、介護職、生活相談員を経て、現在は、係長として施設運営のマネジメント、外国人スタッフの受け入れを担当しています。現在寿生苑では、フィリピン、ネパール、スリランカ、ミャンマーから13人が来日し働いています。彼らの受け入れは、在留資格により方法は様々ですが、現地面接に始まり、各種手続き、ホームステイ先選び、一人暮らし・ルームシェアをするためのアパート探しや家具調達、入国出迎えなど、多岐にわたります。外国人スタッフは、言葉の不安が一番大きいと思います。文章にふりがなをつけたり、先輩外国人スタッフと一緒に、積極的なコミュニケーションに努めています。でも、一番大事なのは常に笑顔でいることです。言葉でいろいろ言っても余計不安になったり、自信をなくしたりするものですが、笑顔は言葉がなくても伝わります。「大丈夫！」という思いを込めて、笑顔を大切にしています。

## ❗ 仕事以外はどんな生活をしている？

— 自宅でおうちキャンプを楽しんでいます

休みの日は、自宅の庭でバーベキューをしたりして、おうちキャンプを楽しんでいます。火を起こして非日常を味わうのがいいですね。メスティン（飯盒）でご飯を炊いたり薫製もつくります。でもキャンプ場にはまだ行ったことがありません。寿生苑にはキャンプ好きのスタッフがいるので、いつか一緒に行って、それぞれがソロキャンプする、なんていうのをやってみたいですね。

今はできていませんが、子供の頃からバレーボールをやっていました。小学校4年生の頃からジュニアバレーのチームに所属し、中学、高校と続けて、その後もしばらく社会人バレーをやりました。バレーボールを通して学んだ、仲間の大切さやチームワークが今も活きていると思います。



取材を終えて

とても穏やかで、ふんわりとした雰囲気を持つ塩田さん。様々な業務を担当されていますが、「何事も楽しむ！」という前向きな気持ちを大切にされているそうです。周りのスタッフさん達も、そんな様子に励まされ、勇気づけられているだろうと思いました。